

記録：R〇年〇〇月〇〇日

記入例

事例：(2)年(2)組 名前(A)

R : Research 調査

○ アセスメント：現在の状態を捉える。

日常生活の情報、「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」などから状態像を分析・考察する。

- ・ 成績が下がってきている。
- ・ 勉強を頑張りたい気持ちがあるが学習方法が見つからない。
- ・ 授業中、自分なりに学習に取り組んではいるが、学習内容の理解や学習方法について困っている。

※ 客観的事実を記入する。教師の主観による記述は必要ない。
 ※ ストロングポイント及びウィークポイントを書き出すだけでもよい。



P : Plan 計画

○ 目標（支援策）の立案：アセスメントした状態像から指導・支援の方向性を決める。

目指す姿を定め、支援の方向性を決める。

授業への取組を称賛し、本人が学習の方法を確立できるよう支援する。

ストロングポイント ウィークポイント

※ 「アセスメント」を生かして、今後の支援のベクトルになる目標(支援策)を考える。
 ※ ストロングポイントを生かしながら、ウィークポイントを支援していく目標(支援策)にする。



○ 取組内容の検討：具体的な対応方法を考える。

どのような取組内容（手立て）があるか、書き出す。

- ・ 授業中、グループでの話し合い活動や学習の振り返り活動を取り入れる。
- ・ 面談を通して学習に対する課題を整理し、目標を立てさせるとともに行動できるよう継続的な支援をする。
- ・ 学習プリントやノート等を利用して、本人が努力していることやできるようになったことをコメントにして返す。 など

※ 目標（支援策）を実現するための取組内容をなるべく多く書き出す。

児童生徒への関わりを、具体的にどう行っていくかを整理する。

誰が	誰に	どんな機会に・どんなことを
担任	A	面談を通して学習に対する課題を整理し、目標を立てさせるとともに行動できるよう継続的な支援をする。
授業担当者	学級全員	授業において、グループでの話し合い活動や学習の振り返り活動を取り入れる。
授業担当者	A (学級全員) 及び担任	授業中に意識して称賛できることを見つけ、称賛するとともに、その内容を必ず担任に伝える。
担任	保護者	学校での様子（特に学習に対する変容、本人の頑張りなど）を、定期的に保護者に伝える

※ 優先順位を決めてもよい。
 ※ 当事者（ここではA）以外への（周囲への）支援も考える。